



米決済大手のペイパルがペイディを3000億円で買収へ



〔7日 ロイター〕 -

米決済大手ペイパル・ホールディングスは7日、後払いサービスのペイディ（東京・港）を3000億円で買収すると発表した。買収は現金で行う。今年10—12月までに完了させる予定。

ペイディの創業者であるラッセル・カマー会長と杉江陸社長兼最高経営責任者（CEO）は留任する。

BNPL（バイ・ナウ・ペイ・レイター）」と呼ばれる後払い決済サービス分野では、米決済サービス大手スクエアがこのほど、豪アフターペイを290億ドルで買収すると発表している。

英紙フィナンシャル・タイムズ（FT）は8月、ペイディが上場を検討していると報じていた。

BNPLの事業モデルは、米連邦政府の新型コロナウイルス給付金支給を背景に、大きな成功を収めており、消費者信用市場のあり方を一変させている。

BNPL事業者は、小売店（加盟店）に立て替え払いをし、手数料を請求。消費者は、事前審査なしに無利子の分割払いで返済する。

一部報道によると、アップルやゴールドマン・サックスも参入を準備している。

ペイパルは、今回の買収により、世界3位の電子商取引市場である日本で国内決済事業を強化し、既存の国際電子商取引事業を補完できると表明した。

同社は、今回の買収に伴う2022年の調整後1株利益の希薄化は最小限にとどまると表明した。